

令和2年度 雄武町の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用内容

(単位:千円)

No.	事業名	事業内容(使途)	補助単独	事業開始年月日	事業完了年月日	計画総事業費	交付金対象実績事業費	交付金充当額	実施実績	効果検証
1	感染症対策費	新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒液、手袋などの必要資材を備え、町民や妊婦へマスクを配付しました。 また感染症注意喚起チラシを新聞折込し啓発を行いました。 このほか主要施設コロナ禍における対策として必要な改修や物品整備などを行いました。	単独	R2.4.15	R3.3.24	27,174	19,835	18,835	マスク、手袋、消毒液、消毒薬、アクリル板、ペーパータオル、防護衣 =8,644,434円 感染症対策網戸16施設=2,088,130円 郵便料1865件=196,265円 チラシ折込料3回=20,096円 消防庁舎感染症対策改修=6,490,000円 Web会議用備品=495,000円 災害対策ルーム60組=2,156,440円 避難所ジェットヒーター5台=1,628,000円 サーマルカメラ8台=1,622,500円 消毒液スタンド2台=42,900円 ホワイトボード2台=127,963円 除染機器5台=2,335,300円 換気対策用暖房機5台=145,200円 災害対策用トイレ1台=295,790円 ファイリングキャビネット5台=269,500円 空気清浄機6台=464,400円 換気対策用扇風機6台=36,432円	コロナ禍で入手しづらかったマスクを全町民へ配付することができ、感染予防対策に繋がりました。 コロナ禍における換気対策として、主要な施設に網戸を増設し、より換気対策を高めました。 チラシ折込や郵便などで適宜注意喚起を行い、町内のコロナ禍における感染予防に対する意識付けにも繋がりました。 公共施設や避難所でのコロナ禍における感染予防対策として使用する必要な物品を揃えたことで、万が一の災害時等において、感染症予防対策に一定の対応が可能となりました。 コロナ禍でも救急出動や消防活動で不特定の人と接する機会が多い、消防職員、救急隊員が勤務する消防庁舎の感染予防対策として、除菌のためのシャワー室設置や水回り改修工事を行い、職員から他者への感染リスクの低減と職員同士の感染リスクの低減を図りました。
2	新型コロナウイルス感染症対策「地域元気応援券」事業	新型コロナウイルス感染拡大で地域経済が疲弊し大きな影響を受けたことから、町内飲食店等で使用できる応援券(クーポン券)を全町民へ配付し消費喚起と景気対策を図りました。	単独	R2.4.15	R2.9.30	24,788	24,788	24,788	事務用品代=59,797円 (印刷用トナ-2本×19,684円、封筒4,441枚×4.6円) 郵便料(書留)369.4円×4,412名=1,629,793円 応援券500円×42,801枚=21,400,500円 商工会事務費=1,700,000円 (応援券チラシ・ホスター代460,000円、券作製代217,000円、封筒・用紙代419,000円、専属職員504,000円、パソコン100,000円)	コロナ禍で地域経済が疲弊し大きな影響を受けたことから、町内飲食店及び商工会加盟店で使用できるクーポン券を全町民へ配付し、発行額22,060,000円に対して、使用額が21,400,500円で、商品券使用率が約97%となり、広く町民に利用され、町内の消費喚起と景気対策に資することができました。
3	新型コロナウイルス感染症対策経営支援補助事業	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、売上げが減少した町内事業者(事業所)に対して、事業継続のための経営支援を行いました。	単独	R2.5.15	R2.10.5	15,515	15,515	15,515	事務用品代=110,525円 (印刷用トナ-5本×22,105円) チラシ折込料1回=5,344円 事業者への経営支援77件=15,400,000円	コロナ禍に伴う休業要請や出控えでの消費低迷など、町内経済にも深刻な影響が及んだなか、1事業者につき200千円の経営支援を行ったことで、経営悪化が緩和されました。
4	新型コロナウイルス感染症対策雄武町水産加工業雇用維持・経営持続化対策事業	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、経営が圧迫している町内民間水産加工業者に対して、従業員の確保と経営持続化に関する支援を行い、地域雇用の維持と経営の安定化を図りました。 期間:6月~11月(6か月) 基準日:毎月1日 均等割:一月あたり 20人未満 80万円 20人以上30人未満 64万円(20%減) 30人以上50人未満 56万円(30%減) 50人以上 40万円(50%減) 従業員数割: 職員・外国人2万円、パート1.5万円	単独	R2.6.1	R2.12.24	105,550	105,550	105,550	従業員数総計392名 (職員164名、パート49名、外国人179名) 均等割総額 60,000,000円 従業員数割総額 45,550,000円	コロナ禍で国内外の需要が低迷し、加工製品の値崩れが生じて民間水産加工業者の経営を圧迫したことから、一定の財政支援を行い、雇用の確保と経営の持続化に資することができました。
5	商業活性化推進事業	新型コロナウイルスの影響を受け、地域の消費・購買意欲が停滞していることから、「地域元気応援券」の次なる対策として、雄武町商工会が行っているプレミアム付き商品券販売事業へコロナ禍対策上乗せ率20%の支援を行いました。	補助	R2.6.12	R3.3.11	12,000	11,000	5,000	商品券販売額30,000,000円×コロナ対策上乗せ率20% =6,000,000円 商品券販売額30,000,000円×道財源10% =3,000,000円 商品券販売額30,000,000円×町単独10% =3,000,000円 ※最終実績額11,983,857円	14,000円分の商品券のプレミアム額4,000円分を町が負担(プレミアム率40%のうち、20%分がコロナ禍上乗せ、10%分が道の特定財源、残り10%が町単独)したことで、コロナ禍で停滞した町内の消費喚起に高い効果が得られました。 雄武町商工会が行っている「お得天よ商品券」販売事業へ通常上乗せ率20%にコロナ禍上乗せ率20%の計40%の支援を行い、コロナ禍で低迷した地域の消費・購買意欲喚起に繋がりました。
6	公立学校情報機器整備費補助金(学校情報機器整備事業)	(学校からの遠隔学習機能の強化事業) 教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境整備は遅れ気味で、自治体間の格差もあります。 令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務と言われ、特にコロナ禍にあっては、速やかに整備することで、学校の臨時休業等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になることから、遠隔学習機能機材を導入しました。	補助	R2.6.12	R3.4.30	175	87	0	遠隔学習機能機材5校×35,000円=175,000円	学校通信環境の改修と端末等の整備を行い、コロナ禍における、ICT学習支援や臨時休校等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になりました。

令和2年度 雄武町の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用内容

(単位:千円)

No.	事業名	事業内容(使途)	補助 単独	事業開始 年月日	事業完了 年月日	計画 総事業費	交付金対象 実績事業費	交付金 充当額	実施実績	効果検証
7	GIGAスクール端末等導入事業	教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境整備は遅れ気味で、自治体間の格差もあります。令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務と言われ、特にコロナ禍にあつては、速やかに整備することで、学校の臨時休業等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になることから、学校通信環境を改修し、児童生徒端末及び関連機器を整備しました。	単独	R2.6.12	R2.12.24	9,680	8,377	8,377	端末205台=2,658,850円 スリムキーボード75台=1,303,500円 充電保管庫11台=3,224,100円 モバイルルーター10台=48,500円 学校通信環境改修5校=1,155,000円 学習ソフト導入手数料5校=325,600円 学習ソフトライセンス5校=399,300円	学校通信環境の改修と端末等の整備を行い、コロナ禍における、ICT学習支援や臨時休校等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になりました。
8	商店街等新型コロナウイルス感染予防対策支援事業	商店街等が実施する新型コロナウイルス感染予防対策や消費促進の取り組み、3密防止の取り組みに要する経費の一部を補助する事業について北海道が実施しましたが、この事業に係る自己負担分の一部を町が支援しました。	単独	R2.7.13	R2.9.30	600	600	600	雄武町商工会へ支援 400,000円 雄武町大通り商店街協同組合へ支援 200,000円	感染対策資材が供給されたことで、コロナ禍でも飲食店や商店などの商工業者が一定の営業活動を行うことができ、町内の経済活動への影響を最小限に食い止めることができました。
9	教育委員会関係感染症対策事業	町内各小中学校の換気対策及び3密を防ぐための給食喫食対策、町内社会教育施設及び体育施設の換気対策を実施しました。	単独	R2.7.13	R3.1.14	1,486	1,416	1,416	網戸=707,740円(5校×65,560円、4施設×94,985円) 扇風機60台=249,480円 食缶8個=142,120円 水回り改修2施設=409,640円	コロナ禍において、必要な物品を揃え、換気対策などを施したことで、教育委員会所管施設の感染予防対策が図られました。
10	学校保健特別対策事業費補助金(小中学校感染症対策事業)	(学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業) 町内各小中学校の児童生徒・教職員等の感染症対策及び熱中症対策に係る物品等を揃えました。	補助	R2.9.17	R3.3.29	10,000	5,874	2,320	雄武小学校(消毒薬、マスク、学習用消耗品・備品) 1,930,482円 沢木小学校(消毒薬、マスク、学習用消耗品・備品) 1,997,537円 豊丘小学校(消毒薬、マスク、学習用消耗品・備品) 946,534円 共栄小学校(消毒薬、マスク、学習用消耗品・備品) 790,723円 雄武中学校(消毒薬、マスク、学習用消耗品・備品) 1,444,605円	コロナ禍において、町内各小中学校に必要な物品を揃えたことで、感染予防対策や、コロナ禍での学校活動を行うことができました。
11	欠番									
12	雄武町公共ネットワーク整備事業	新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務対応(テレワーク)が可能となるように役場庁舎内の通信環境等を整備すること併せ、感染症関連情報など、町からの情報提供手段に即時性の高いテレビdボタンで表示されるデータ放送を活用しました。	単独	R2.9.17	R3.3.17	3,630	3,597	3,597	テレワーク導入委託料15台=3,465,000円 地デジ広報サービス使用料5ヶ月分=165,000円	コロナ禍における執務対策としてテレワーク環境を導入することができました。また、在宅割合が多い(巣ごもり)ことを考慮し、ほとんどの家庭で視聴することが可能と思われる地デジ放送の広報サービスを活用し注意喚起を行い、感染予防対策の啓発ができました。
13	ホテル日の出岬運営支援事業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、売上げが減少したホテル日の出岬に対して、雇用維持と経営の安定化及び感染症対策のため支援しました。	単独	R2.9.17	R3.3.8	48,000	20,000	20,000	ホテル日の出岬へ支援 48,000,000円	コロナ禍に伴う経営安定化対策として、一定の財政支援をし、休業や飲食営業の縮小を余儀なくされたホテル日の出岬の雇用維持と経営の安定化に寄与しました。
14	生活交通路線維持確保事業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、売上げが減少した宗谷バス株式会社に対して、感染症対策を講じた継続運行のため支援しました。	単独	R2.9.17	R3.1.20	1,455	1,455	1,455	宗谷バス株式会社へ支援 1,455,000円	コロナ禍に伴うバス事業者の負担軽減として、一定の財政支援をし、町民等の移動手段であるバス路線の維持確保に寄与したことで併せ、感染症予防対策を講じた継続運行に繋がりました。
15	雄武町子育て応援事業	新型コロナウイルス感染症の影響で、不安を抱えながら子育てをしている世帯へ、オリジナルの商品券を配布し、併せて町内の経済対策に繋げるとともに、国の特別定額給付金の基準日の翌日から令和3年4月1日までに出生した新生児のいる世帯へ、新生児特別給付金を給付しました。	単独	R2.9.17	R3.3.30	18,250	14,429	14,429	郵便料=132,622円、 チラシ折込料1回=5,245円、 事業費負担金11,367,000円、 (500円券×11,398枚、1,000円券×5,668枚) 事務費負担金1,430,000円、 (チラシ・ホスター代275,000円、券作製代165,000円、封筒・用紙代187,000円、 専属職員671,000円、パソコンリース132,000円) 給付金1人あたり100,000円×15人=1,500,000円	コロナ禍において、子育て世帯へ給付金を給付し、経済的負担の軽減に寄与することができ、町内で利用可能な商品券を発行したことで、町内経済の消費喚起に繋がりました。
16	保育所整備事業(空調設備)	町内保育所で入所児や保育士等のマスク着用に伴う熱中症、脱水症状を予防するため、冷房設備(エアコン)を整備し、快適な保育環境を確保しました。	単独	R2.9.17	R3.3.9	14,245	14,245	14,245	保育所内冷房設備整備6室=14,245,000円	冷房設備を整備したことで、気温が上昇した日も室内の適温が保たれ、コロナ禍において、マスク着用の児童や保育士等の熱中症等発症の防止に有効なものとなりました。
17	雄武高等学校存続対策事業	北海道が設置している町内に唯一ある雄武高等学校において、感染症が発生した場合の臨時休校時でも、ICT機器などを活用し、学びの継続が確保される環境を補うため、雄武町が必要機器を揃え、費やりました。	単独	R2.9.17	R3.2.8	7,425	7,425	7,425	タブレット端末80台=6,943,200円 タブレット端末保管庫3台=438,900円 専用電源ケーブル15本=42,900円	コロナ禍に対応した高校学習をより充実させるため、町が購入整備したタブレット端末及び付属品を貸与し、実りのある学習環境に寄与することができました。
18	欠番									
19	新型コロナウイルス感染症対策経営緊急支援補助事業	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上げが減少した町内の対象飲食店で令和2年10月～12月迄の売上げ中、前年度同期間と比較して減少した額に0.6または0.7を乗じて得た額を支援しました。(1件あたりの上限額は500千円)	単独	R2.12.11	R3.3.11	10,000	8,000	8,000	対象飲食店24件 8,680,000円	コロナ禍の影響で例年の歳末よりも売上げが減少した飲食店に対して財政支援を行い事業継続の一助となりました。

令和2年度 雄武町の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用内容

(単位:千円)

No.	事業名	事業内容(使途)	補助 単独	事業開始 年月日	事業完了 年月日	計画 総事業費	交付金対象 実績事業費	交付金 充当額	実施実績	効果検証
20	学校情報機器整備事業(独自)	教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境整備は遅れ気味で、自治体間の格差もあります。 令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務と言われ、特にコロナ禍にあっては、速やかに整備することで、学校の臨時休業等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になることから、遠隔学習機能機材を導入しました。	単独	R2.6.12	R3.4.30	242	0	0	遠隔学習機能機材5校×41,230円=206,150円	学校通信環境の改修と端末等の整備を行い、コロナ禍における、ICT学習支援や臨時休校等の期間中も切れ目ない学習環境を提供することが可能になりました。

計 310,215 262,193 251,552